

# 酪農経営分析チェックシート(農家用)の見方

## ～はじめに～

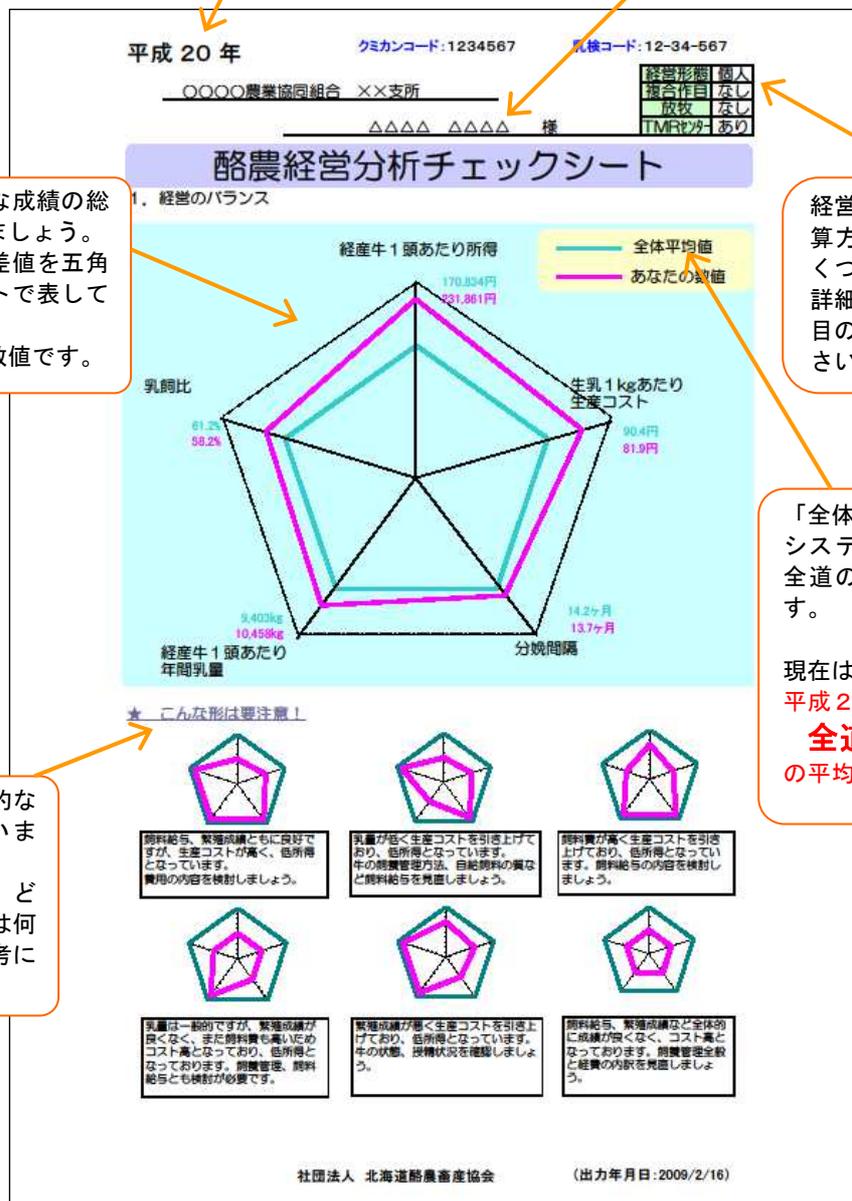
この経営分析は、農家のクミカンデータ、乳検データ、出荷乳量を基に、すべて統一した手法で機械的に計算しております。

そのため、農家個々の詳細な事情に対応できていない部分があるかと思いますが、「経営の全体的なバランス」、「繁殖成績などの主な技術成績」、「経営成果」、「コストと所得」、「他の経営との比較」を大まかに把握できますので、今後の経営改善等の参考資料としてぜひ色々な場面で活用してください。

## ～シートの見方～

分析対象年です。  
この場合は、平成20年1月～12月データの分析結果です。

無記名で申込みをいただいている場合、農家名にはクミカンコードを記載しています。



経営の成果と技術的な成績の総合的なバランスを見ましょう。全体平均に対する偏差値を五角形のレーダーチャートで表しています。外側へいくほど良い数値です。

経営の形態や種類によって、計算方法を変えている費目がいくつかあります。詳細は、後述の「収入・支出科目の仕訳について」を見てください。

「全体平均値」とは、この分析システムをご利用いただいた全道の農家データの平均値です。

現在は、  
平成23年実績  
**全道 1,787戸**  
の平均値を使用しています。

バランスの悪い代表的なパターンを示しています。自分の形と見比べて、どこが悪いのか、原因は何かを考える上での参考にしてください。

乳検農家検定成績の「経産牛頭数」を使用しています。そのため、乳検に加入していない牛は算入されていません。他項目の「経産牛1頭あたり」の数値も、この頭数を基に計算しております。乳検に全頭加入しましょう！

農協から提供いただいた出荷乳量等データより。

乳検農家検定成績より。

前年の結果です。前年に分析を行っていない場合は、0が入っています。

今回の分析結果です。

## 2. 経営全体のまとめ

項目	単位	あなたの実績		管内平均	全体平均
		前年値	平成20年		
経産牛飼養頭数	頭	31.0	35.9	49.8	49.8
年間出荷乳量	t	255.2	375.5	470.1	470.1
経産牛1頭あたり年間乳量	kg	8,231	10,458	9,403	9,403
平均乳脂肪率	%	4.17	4.20	4.12	4.12
平均無脂固形分率	%	8.86	8.84	8.85	8.85
平均初産月齢★1	ヶ月	23.7	25.1	25.7	25.7
平均分娩間隔	ヶ月	12.9	13.7	14.2	14.2
平均産次(期末時)★2		2.5	2.5	2.3	2.3
経産牛平均産次	産	2.9	2.9	3.0	3.0
経産牛淘汰率★3	%	21.6	33.4	25.5	25.5
受胎までの授精回数	回	2.8	2.3	2.5	2.5
空胎日数	日	160	120	158	158
乳脂比	%	66.3	58.2	61.2	61.2
生乳1kgあたり生産コスト	円	111.8	81.9	90.4	90.4
生乳1kgあたり販売価格	円	77.0	76.7	76.6	76.6
年間所得	千円	536	8,324	9,236	9,236
経産牛1頭あたり年間所得	円	17,288	231,861	170,834	170,834
所得率	%	2.1	23.6	18.7	18.7

「管内平均」とは、同じ農協管内で今回の分析に参加した農家の平均値です。

管内平均・全体平均と比較して、自分がどのくらいの位置にいるのかわてみましょう。右にあるほど良い数値となります。

※注1：家族労働費は、経産牛1頭あたり130,854円（生乳生産労働費：121,720円、自給飼料生産労働費：9,134円）で計算しています。  
 ※注2：建物・機械の減価償却費は、経産牛1頭あたり66,392円（生乳生産施設機械償却費：45,373円、自給飼料生産施設機械償却費：21,019円）で計算しています。  
 ※注3：乳牛の減価償却費は、経産牛1頭あたり48,284円で計算しています。  
 （数値はすべて19年度経営診断の平均値より）

～分析に使用した数値について～  
 個別の農家からの聞き取り調査や、資料の提供がないとわからない下記項目、

- ▼家族労働費
- ▼建物・機械の減価償却費
- ▼乳牛の減価償却費

については、注1～3の標準的な数値を用いて分析をおこなっております。

### ことばの説明

- ★1：「平均初産月齢」・・・当期に初産した牛の平均初産月齢です。
- ★2：「平均産次」・・・期末時に在籍していた牛の平均産次です。
- ★3：「経産牛淘汰率」・・・（当期に除籍した牛の頭数）／（経産牛飼養頭数）

【購入飼料費】 TMR センター「参加」農家の場合  
 乳飼比 50.0%以上 60.0%未満・・・黄色  
 乳飼比 60.0%以上・・・赤色  
 TMR センター「不参加」農家の場合  
 乳飼比 35.0%以上 45.0%未満・・・黄色  
 乳飼比 45.0%以上・・・赤色

【総原価】 生乳 1 kg あたりコストが 1 kg あたり販売価格を 10 円～20 円上回っている・・・黄色  
 生乳 1 kg あたりコストが 1 kg あたり販売価格を 20 円以上上回っている・・・赤色

【所得】 経産牛 1 頭あたり 100,000 円以下・・・黄色  
 経産牛 1 頭あたり 0 円以下・・・赤色

【所得率】 10.0% 以下・・・黄色  
 マイナス・・・赤色

収支の仕訳は、当分析用に大まかな科目で行なっています。各科目の内容については、後頁の一覧表を見てください。

農協のクミカン営農コードでの分類を基本としていますが、摘要の明細を見て分類し直しています。

個人経営の場合、当期純利益（牧場の儲け）に家族労働費を加えたものが「所得」です。

法人経営の場合は、当期純利益がそのまま「所得」となりません。

### 3. 生産コスト

黄色 要注意！ 赤色 今すぐ改善が必要です！

科目	金額	生乳 1 kg あたり	管内平均	全体平均
自給飼料費（肥料・農薬・種子）	4,051	0.0	0.2	0.2
購入飼料費	16,750,442	44.6	46.9	46.9
岩盤費	4,369,748	11.6	13.0	13.0
育成牛購入費	0	0.0	2.0	2.0
賃借費	865,654	2.3	2.9	2.9
建物施設・機械	2,383,473	6.3	5.0	5.0
乳牛	1,733,396	4.6	5.2	5.2
糞料料金	3,635,477	9.7	9.0	9.0
その他（光熱費・修繕費・諸材料費他）	5,259,929	14.0	15.6	15.6
当期生産費用合計	34,247,587	91.2	99.9	99.9
育成費用	3,620,000	9.6	9.2	9.2
子牛・育成牛等販売収入	1,071,656	2.9	3.9	3.9
支払利息	414,613	1.1	1.6	1.6
販売・管理費	771,166	2.0	2.1	2.1
総原価	30,717,706	81.2	90.4	90.4

初生牛、育成牛の販売をクミカン外で取引している場合、「子牛・育成牛販売収入」は 0 円となってしまいます。（エサ代等も同じです。クミカンを通した金額しか入っていません。）

あなたの牧場では、牛乳 1 kg を生産するのに 81.9 円の費用がかかっています。

【そのうち、購入飼料費は 44.6 円です。】

その牛乳を、1 kg 77.0 円で販売しています。

したがって、牛乳 1 kg あたり -4.9 円の利益があります。



### 4. 所得

項目	金額	経産牛 1 頭あたり	管内平均	全体平均
生乳販売収入（補給金含む）	28,790,142	801,954	720,007	720,007
育成牛・初生牛販売収入	1,071,656	29,851	36,776	36,776
その他収入	5,463,561	152,188	151,323	151,323
売上高計	35,325,359	983,993	908,066	908,066
当期生産費用	34,247,587	953,972	937,223	937,223
売上総利益	1,077,772	30,021	-29,157	-29,157
当期純利益	3,954,069	110,141	48,657	48,657
所得	8,323,817	231,861	170,834	170,834
所得率	23.6	23.6	18.7	18.7

あれ?! 1 kg あたりの利益がマイナスなのに、牧場が儲かっている?!

事業外収益（受取共済金、補助金、助成金等）があるからです。搾った生乳の売上だけではマイナスになってしまうが、事業外収益を加えるとプラスに・・・という経営です。

あなたの牧場の純粋なもうけ（当期純利益）は 3,954,069 円です。

あなたの家の所得は 8,323,817 円です。

この所得は、必要経費・償還金・貯蓄・新たな投資にあてることもできます。

社団法人 北海道酪農畜産協会

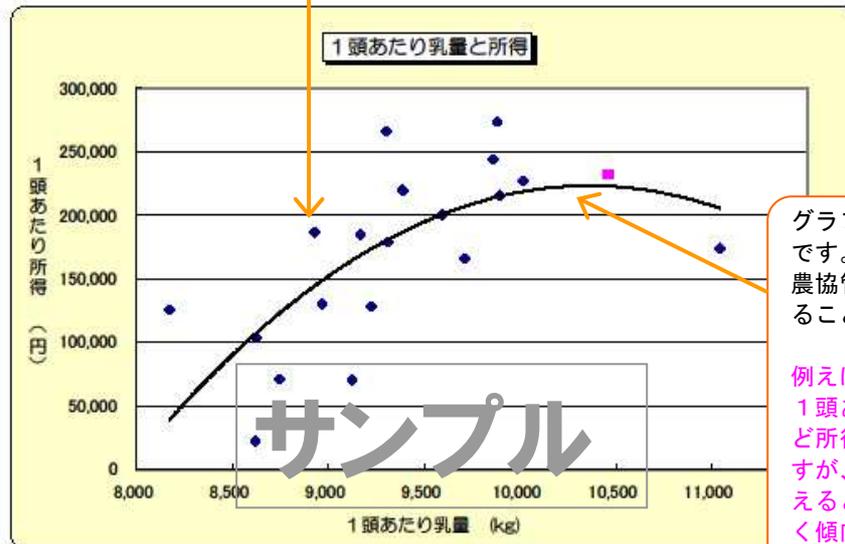
今回の分析に参加した他の農家を ◆ 印で示しています。

今回の分析に参加した農家数です(自分を除く)。

### 5. 地域他経営との比較 同じ農協管内の酪農家

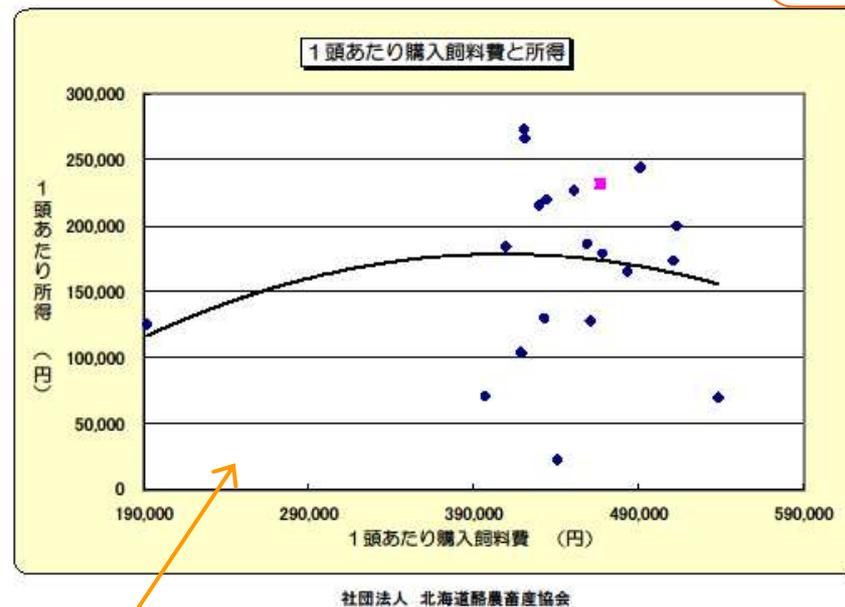
19 戸と比べて、あなたの経営は・・・？

■ 印が、あなたの経営の位置です。



グラフの相関を表す曲線です。  
農協管内全体の傾向を見ることができます。

例えばこの場合・・・  
1頭あたり乳量が多いほど所得が高くなっていきますが、10,000kgを少し超えると所得は下がっていく傾向が見られます。



社団法人 北海道酪農畜産協会

このように、地域内で自分の経営の位置がどこにあるのかを確認できます。また、1頭あたりの乳量や1頭あたり購入飼料費をどれくらいにすれば最大限の所得が得られるのか、傾向をつかんで、改善ポイントを探る材料にしましょう。

シートの見方について生産者のみなさんを集めての勉強会や講習会の開催、今回の分析結果について農協の営農指導担当の方々へのご説明、改善の必要のある農家への詳しい経営診断など、酪農畜産協会がお手伝いいたしますのでご相談ください。

## ～収入・支出科目の仕訳について～

収支科目の仕訳は、酪農畜産協会が行なう経営分析の手法と同じように仕訳していますが、本システムでは個々の農家や明細まで細かく対応することができないため、実際の金額と差が出る場合があります。

- ① クミカンデータのみを使用した分析なので、クミカン外取引は入っていません。
- ② 複合経営で、耕種部門・他畜種部門にかかる経費について営農コードが分かれていない場合は、摘要を見て出来る限り区別して除外していますが、不明な場合は集計に入ってしまいます。  
(肥料、農薬、飼料、資材、授精、診療、販売経費など)
- ③ 乳検には育成牛についてのデータがないため、育成牛の棚卸はしていません。
- ④ 家族労賃と減価償却費については、標準的な数値を用いて「みなし計算」しています。  
計算方法は下表のとおり行なっています。

科 目	主な内容
生乳販売収入	乳代、補給金
育成牛・初生牛販売収入	初生牛、育成牛、初妊牛
その他収入	奨励金、堆肥販売、乾草販売など
自給飼料費	肥料、農薬、種子
労働費	個人経営・・・1頭あたり 130,854 円×頭数 ※TMR 参加農家は生乳生産労働費（1頭あたり 121,720 円）のみ。 ※専従者給与は労働費としません。 ※クミカンの雇用労賃は、家族に支払っている場合もあり判断できないので、労働費としません。 法人経営・・・クミカンの雇用労働費、役員報酬
育成牛購入費	育成牛、初妊牛 ※初妊牛購入費を「資産造成支出」としている農協がありますが、当分析では「育成牛購入費」としてコストに算入しています。
養畜費	授精、診療、衛生、その他養畜費
建物施設・機械減価償却費	1頭あたり 66,394 円×頭数 ※TMR 参加農家は生乳生産施設償却費のみ（1頭あたり 45,373 円）
乳牛償却費	1頭あたり 48,284 円×頭数
賃料料金	リース料、利用料、借地料、代行料、運賃など
その他	光熱費、修理代、諸材料、小農具、租税公課など ※修理代、小農具代で 200,000 円を超えるものは資産造成支出とし、コストから除いています。
育成費用	当期経産牛振替額（当期に初産した牛に要した育成費用）として、コストから除く金額です。 1頭あたり 50,000 円＋（初産時月齢×10,000 円）
支払利息	※住宅ローン、教育ローンの利息は除いています。
販売・管理費	共済掛金、保険料、販売手数料、電話、旅費、研修、新聞雑誌など